

## 吉田税務署長賞

### 「税金について」

安芸高田市立高宮中学校二年 菅原 由希苗

税金という言葉聞いて思い出したのは、医療費です。私の住む安芸高田市では、高校生までは医療費が五百円です。しかし、大人になるともつとかがかります。だから、子供の医療費の負担がとても少なく、税金の力はすごいなあと病院に行くたびに思っています。私は、絶対に税金はなくてはならない存在だと感じます。私は特に、医療費に興味をもったので、他の地域の医療費について調べてみることにしました。

例えば東京は、高校生まで無料ということが分かりました。このことにはとても驚きました。五百円でも安いと思っていたのに、地域によってこんなにも違いが出るのかと思いました。

そして、これだけ医療費を安くするのは、いま問題になっている、少子高齢化社会を進ませないためのものではないかと考えました。

また、医療費の格差が起きないように、地域で値段のばらつきがない方が良いとも思いました。なぜなら、住んでいる場所で医療費の負担が違うことは住んでいる人にとって、不平等だと思ったからです。そのためにも、税金の力は欠かせないと思います。

税の中でも、私たちが払っている消費税は今、店内飲食が10%、持ち帰りが8%となっており、そこまで高いと思ったことはないです。しかし、消費税は、3%、5%、8%、10%と、年々上がっていると感じたことがあります。消費税が増えているのもやはり、税金を消費する割合が増えているからではないかと思います。税金を払う人の負担が増えていくことは、とても他人事ではないです。

だからこそ将来大人になったときに社会を変えていくのは「自分」だと考えて過ごしていきたいです。そのためにも自分で何ができるか考えて行動をしたいです。

例えば、十八歳になると選挙権があります。だから、十八歳になったら積極的に選挙に行って投票をし、今回の税金などについて、自分たちがより良い暮らしができるようにしたいです。

税金の問題は絶えないと思うし、とても深刻な問題になってくると思います。だからこそ、自分たちでできることを少しずつやっていきたいと思っています。

そして、政治に興味を持つ人が少しでも増えるように、税についての関心が高まるように、税金がどれだけ暮らしの中で役立つかわかるように、自分でできることを考えられるように、税のことが他人事ではなく自分事と思えるように、そんな社会をつくっていききたいと思っています。